



# 神学と社会理論

世俗的理性を超えて

9月25日発売

ジョン・ミルバンク [著] / 原田健二朗 [訳]

◆ A5判・700頁・定価9,350円

これが『ラディカル・オースドキシ』だ！

本書は、教会中心主義的なポスト・リベラル神学を主張する「ラディカル・オースドキシ」の狼煙となつた問題作。アングロカトリックの社会的伝統に連なる断固たるキリスト教社会主義者の面目躍如たるものがあり、また様々な現代思想との対論は極めて刺激的である。初版は1990年、本書は2006年の第2版に基づく待望の邦訳。



【著者】 John Milbank 1952年生まれ。オクスフォードで歴史、ケンブリッジで神学を学ぶ。メソジストの家庭に生まれたが学生時代に国教会に改宗。現在ノッティンガム大学名誉教授。

【訳者】 はらた・けんじろう 1981年生まれ。現在南山大学外国語学部英米学科准教授。著書に『ケンブリッジ・プラトン主義』（創文社、2014年）。

## 【目次より】

### 序 論

第I部 神学と自由主義

第1章 政治神学と新しい政治学

第2章 弁神論と闘争論としての政治経済学

第II部 神学と実証主義

第3章 社会学（1）

——マルブランシュからデュルケムへ

第4章 社会学（2）

——カントからウエーバーへ

第5章 崇高なものを規律する

——宗教社会学批判

第III部 神学と弁証法

第6章 ヘーゲルに賛成し反対する

第7章 マルクスに賛成し反対する

第8章 超自然的なものを基礎づける

——現代カトリック思想のなかの政治神学と解放神学

第IV部 神学と差異

第9章 科学、権力、リアリティ

第10章 存在論的暴力あるいはポストモダンの問題

第11章 美徳の差異、差異の美徳

第12章 もう一つの国

——社会科学としての神学

待望の続巻刊行！

9月18日発売

# イザヤ書註解Ⅱ 11―27章

ジャン・カルヴァン〔著〕／堀江知己〔訳〕

◆A5判・616頁・定価8470円



イザヤ書註解は1551年に出版された、カルヴァンの初めての旧約註解。改革者がヘブライ語の深い知識に基づいて、いかに真剣に預言書に取り組んだか、またいかにキリスト中心的に読み解こうとしたかが如実に伝わる。全5巻。

訳者 堀江知己（ほりえ・ともみ）

1979年、前橋生まれ。東北大学文学部卒業（社会学専修）。東北大学大学院中退（ドイツ文学専攻）。東京神学大学院博士課程前期修了（旧約神学専攻）。日本基督教団堺教会、福島教会、能代教会で牧会、2014年より前橋中部教会牧師。訳書『オリゲネス イザヤ書説教』、『オリゲネス 創世記説教』、『カルヴァン』、『アモス書講義』、『創世記Ⅱ』、『共観福音書下』、『イザヤ書註解Ⅰ』など。

◆既刊

イザヤ書註解Ⅰ 1―10章

堀江知己訳

◆A5判・590頁・定価6820円

最近のオンデマンド化から

## 戦争・平和・キリスト者

ローランド・ベイントン著／中村妙子訳

◆A5判・定価5995円

## ヒトラー政権の共犯者、犠牲者、反対者

《第三帝国》におけるプロテスタント神学と教会の《内面史》のために

H.E. テート著／宮田光雄・佐藤司郎・山崎和明訳 ◆A5判・定価9900円

## キリストに従う

ディートリヒ・ボンヘッファー著／森平太訳 ◆四六判・定価5280円

川島重成著

## 見知らぬ神の跡を追って

新約聖書とギリシア・ローマ世界 神とは誰か、人間とは何ものか。西洋精神の二源流である聖書思想とギリシア・ローマ思想はいわば信と知の代表にも擬せられ相矛盾するものと捉えられるがた。もとより著者は両者の安易な統合を図るのではないが、しかし両者が追いつめられたそれぞれの神の跡を遙かに辿り、寛やかでかつ真摯な対話を希求する。滋味豊かな18の講演とエッセイ。

四六判・予価3800円

コデイ・サンダース&アンジェラ・ヤーバー著／真下弥生訳

## 教会のマイクロアグレッション

マイクロアグレッションとは、日常の親密圏で生じる人種・ジェンダー・セクシュアリティなどにまつわる攻撃である。それは社会に埋め込まれた偏見を無邪気・無反省に再生するものから意識的な嫌がらせまで広範にわたる。「善意の人々」が集う教会でもそれは頻発する。本書はその実態を直視し、攻撃の構造を精緻に考察し、教会が愛の共同体として自己変革していくための方途を模索する。

四六判・予価3800円

ヴォルフハルト・パネンベルク著／佐々木勝彦訳

## 組織神学 第二巻

邦訳全三巻がついに完結。この第二巻では、創造論、終末論、人間学、キリスト論、和解論が独特無比な仕方でも展開され、20世紀の後半における最大の組織神学的収穫であるパネンベルクの体系の、中核と全貌がここに明らかとなる。

A5判・予価9000円

● 8月に出た本と雑誌

## マルティン・ニーメラー

ヒトラーに逆らった牧師

マシュー・ハケネス著／穂田信子訳



Uボートの艦長から愛国主義的な牧師へ、ナチ党支持者から強制収容所の囚人へ、教会改革の指導者から平和運動の旗手へ——その激動の生涯を描く最新評伝。

◆四六判・定価4400円

## ユーモア実践

人生を楽しむ7法則

宮平望著（みやひら・のぞむ氏は西南学院大学教授）



ユーモアは、ありきたりの言葉や笑いという完成に導く。このレトリック技術を網羅的に精査し、豊富な例示と共に七つの法則を導き出す。

◆A5判・定価1650円

## 福音と世界

9月号 特集II教会の罪責告白

◆定価660円

特集寄稿…佐藤司郎、朝岡勝、佐々木結

久保礼子、金迅野、吉田新

時評 戒厳、弾劾、罷免、そして新しい出発（洪伊杓）

書評 山本賢蔵『静寂者ジャンヌ』（鶴岡賀雄）

好評連載 戒能信生、富田正樹、石田学、福嶋揚、田島卓、

今高義也、長尾優、山崎ランサム和彦

販売部から

私は幼少期からクリスチャンの母に連れられ、主日礼拝や日曜学校に出席してきました。やがて成人し、日中は働きながら、夜間制の神学校で6年間座学に励みました。在学中も卒業後も「私はキリスト者としてどう生きるべきか？」を問い続けています。ある日、「あかりを灯しつづけて37年」（大野顯二著、新教出版社）の「御言葉に根ざして」を読んだ際、とても印象に残った箇所が複数ありました。「キリスト者の人生の基礎はイエス様の御言葉です。キリスト者の人生は、神の国を目指す人生です」（99頁）、「あなたがしてほしくないと思う

ことは、人にもしてはならない、これが律法のすべてであり、あとは、その説明である」（101頁）、「イエス様が共に歩み、導いてくださいます。イエス様が試練の人生と共に歩み、希望ある人生として下さいます」（108頁）。これらは「どう生きるべきか」という私の問いに対する答えだと確信しました。また信仰の薄い私を励ましてくれました。本書には他にも様々なメッセージがあり、多くの試練の中を歩む方々に対して励ましとなり、特に聖書で語られるイエス様の教えに対する新たな気づきを得られますので、ぜひ手にとってお読みくだされば幸いです。（坂谷内）

■立ち読みコーナー■（近刊書からときどきご紹介しします）

私は本書で世俗的理性を猛批判したが、キリスト教が支配的だった過去の時代を擁護してそうしたのではまったくない。むしろその逆だ。キリスト教による歴史の「中断」を再び語り、その存在論的形態を取り戻す（そして、それがキリスト教社会主義によって担われてきたことを示唆する）ことは可能だ。しかし、この中断は悲劇的に失敗したものであり、この失敗のプロセス自体が世俗的理性を生み出したことも認識すべきである。かつて世俗的なものなど存在しなかった。しかし、それは少なくとも一一世紀には創造されはじめたのである。

ジョン・ミルバンク著（原田健二朗訳）『神学と社会理論』（9月25日刊）より

福音と世界

2025年  
10

A5判・80頁・定価660円・送料70円  
年間予約購読料（送料共）8760円

特集・フアナティズム

——「狂信」と「熱狂」の狭間で

必敗と解放 アルベルト・トスカノ

『狂信主義』をめぐる 布施 哲

『本当のアムレク人はお立ちください』——ジェ

サイドを可能にする狂信と理性 マニエル・ヤン

自己への熱狂——絶望の時代の走り方

——哲学コレクティブ「敷衍」

変わりゆくアメリカの福音派と政党政治

相川 裕亮

スポーツ・フアナティズム論——全体主義・

民衆の抵抗・資本主義の儀礼——山本敦久

Reach out and touch faith

——偶像としての偶像破壊——高田 怜央

新連載 「山上の説教」を読む……陶山義雄

【時評】善きサマリアびとになる——教皇フランシス

「この遺産と新教皇レオ四世の課題……阿部仲麻呂

【好評連載から】

◆人物・日本キリスト教史 4 ……戒能信生

◆ばやし牧師のさすらい説教録 7 ……富田正樹

◆異端者の世界航海 7 ……福嶋 揚

◆証言としての旧約聖書 18 ……田島 卓

◆八木重吉の聖書 27 ……今高義也

◆新約釈義 ルカ福音書 46 ……山崎ランサム和彦